

八ツ場ダム住民訴訟 原告 陳述

2005.1.16.

梅沢 みどり

私たち都民には巨額な建設費のかかる八ツ場ダムは必要ありません。現在使われている水道水源の地下水を十二分に利用できるように調査研究を進めることや、洗濯機や水洗トイレなどの節水機器の開発や節水の啓蒙にこそ予算と人材をつぎ込むことが重要です。また少子化に伴い東京都の人口は減少に向かうと予想されます。そのような中では水の需要が大幅に増えるとは考えられません。

私は東京都多摩地区に住んでおりますが、多摩地区の自治体は、水道水源に地下 100 メートル以上の深井戸から汲み上げる地下水を利用しているところがほとんどです。私の住んでいる府中市は 4 割ですが、10 割近い昭島市や 6 割を利用する三鷹市、調布市、武蔵野市、国立市などが 1998 年の私たちの調査で確認されました。地下水で不足する分は利根川や多摩川の河川水で補っていると私たちは考えています。このことは是非よく理解してください。

河川水は遠くのダムで貯められた水を長い距離引いてきた水です。一方、地下水は私たちの足元を深く流れている自前の水源です。雨が土壤に浸透する過程で濾過され良好な水質を保っています。平均水温は 15～16 度と一定していて「夏は冷たく、冬は暖かい」水です。私たちはこの地下水をより有効に大切に利用していきたいと思っています。一時、地下水の過剰くみ上げで、地盤沈下が心配されましたが、それも収まっています。今ではビルや地下鉄の工事で地下水があふれて困っているという話も聞きました。それらの多くは下水に捨てられています。大変もったいない話です。

私が初めて地下水に関わったのは 10 年近く前です。府中市は 1983 年に 3 本の水道水源井戸で有機溶剤による「地下水汚染」が発見されました。しかしそれらの井戸は対策も取られないまま利用が停止されてしまいました。私たちは汚染の拡大を心配して、1991 年に市民グループ「府中井戸ばた会議」を作りました。そして汚染井戸の浄化対策を働きかけ、数年かけてやっと実現しました。今も浄化された地下水を私たちは飲み続けています。その活動の中で私たちの周辺に民間の井戸がたくさんあり、所有者の方が井戸水をととても大切にしている事を知りました。

このように身近で貴重な水源である地下水の良さを、もっと私たちは皆さんに理解していただきたいと思います。水道水として地下水を利用しながら、涵養のために雨水の浸透を図る施策を推進する。その上で足りない分を河川水で補う。このような水道水源政策を求めます。自然環境や地元の方々の生活を破壊してまで、ダムの建設を進めることは望みません。私たちはそのような事で得られる水は利用したいとは思いません。八ツ場ダムの建設は税金の無駄遣いです。即刻やめてください。